

日鉄住金工材(上越)に知事賞

県経営品質賞 13年ぶり最高賞



県経営品質賞の知事賞を授与された日鉄住金工材の石川昌弘社長（左）＝26日、県庁

県内企業の経営姿勢を審査、評価する県経営品質賞委員会が26日、金属製品製造販売の日鉄住金工材(上越市)に2017年度の「知事賞」を贈った。最高賞である知事賞授与は04年度以来13年ぶり。

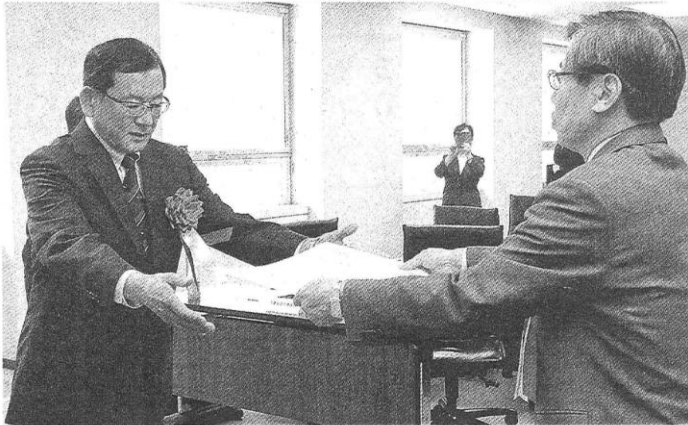
日鉄住金工材は、社員の幸せと顧客満足度、生産性向上を同時に追求。15年度に、最高賞に次ぐ「とき賞」を受けた後も取り組みを進め、経営が卓越した水準に達していると認定された。ほかに今年も、結婚式場の迎賓館TOKIWA(新潟市中央区)と、学校法人新潟青陵学園が運営する新潟青陵高校(同)にとき賞が贈られた。それぞれ16年度に受けた奨励賞よりレベルを上げた。TOKIWAは役職員が全員参加する経

営の仕組みづくり、新潟青陵高は独自の教育メニュー開発などが評価された。同日県庁で表彰式があり、日鉄住金工材の石川昌弘社長は「社員と顧客の満足度は向上したが、理想の姿までは道半ばだ」と述べた。TOKIWAの斎藤伸雄代表役員は「自社にしかできないことを命がけて磨いていく」と力を込め、新潟青陵高の羽田春喜校長は「一面倒見のよい教育の実現へ工夫を続ける」と語った。

(5)

2018年(平成30年) 4月27日(金曜日)

高井副知事(右)から最高賞の表彰状を受け取った石川社長



新潟県経営品質賞

日鉄住金工材(上越市)

13年ぶりの知事賞に

県経営品質協

経営品質向上プログラムを実践する県内企業で組織した新潟県経営品質協議会は26日、県庁で平成29年度の新潟県経営品質表彰式を開いた。上越地域から、ステンレスなど各種金属製品の製造・販売を手掛ける日鉄住金工材(上越市川原町、石川昌弘社長)が最高賞の知事賞に輝き、知事職務代理者の高井盛雄副知事から表彰状が贈られた。

同プログラムは①顧客志向し、「卓上」11年度に創設され、申請に際して同プログラムに基づき審査される。知事賞は1000点満点中500点以上の優秀な企業のみ贈られ、今回は13年ぶり6社目となった。

同社は社員幸せ、顧客満足、生産性の向上を同時に実現するための「かがやきサイクル」を進め、顧客との対話による信頼関係の構築、組織能

力向上と人材育成を通じて最高級製品の提供に注力。審査においても高く評価された。同27年度には知事賞に次ぐ「とき賞」を受賞している。

あいさつに立った石川社長は4年前から経営品質向上に取り組んだことで、売上高利益率12%を達成しながら社員の有給休暇取得率30%を表現。「社員が元気で会社の業績も上がった」と紹介した。その上で受賞を喜びつつ「理想の姿への道はまだ半ば。自律的に各人・職場がより高い目標に挑戦し、世界中に新潟で作った製品をブランドとして広めた」と力を込めた。

高井副知事は経営環境が刻々と変化する中、積極的に変革に取り組む姿勢をたたえ「今後もさらなる研さんに努め、他の企業、組織の模範として活躍いただきたい」と願った。

た。上越地域では同11年度に岩の原葡萄園(上越市)、同14年度にエム・アイ・ディージャパン(同)がそれぞれ奨励賞を受賞している。